

牛久：学校周辺に見る自然

第4号 ひたち野西近隣公園（ひたち野うしく小学校）

2011年4月26日発行

＜ 水辺公園の春 ～ ③ スミレ科の仲間 ＞

4/20(水)、ひたち野うしく小4年生の水辺公園、春の生き物観察。今回は、スミレの仲間。広場から池に向かってゆるい斜面を下っていくと、林内に白、薄紫、赤紫と色とりどりのスミレが咲いていました。ざっと歩いて3種類。種類が違うことに気がついたお友だち、素晴らしいですね。もっと早い時期から観察すれば、他の種類も見つけられたかもしれません。来年の春、探してみませんか？

(1) タチツボスミレ（スミレ科，スミレ属）



牛久市内、というより日本で一番よく目にするスミレではないでしょうか？日当たりのよい草原や林の縁、手入れされて明るい林内など、光さえ充分であれば、北から南、海岸から高い山（亜高山）まで、いろんなところに生育できるよう。環境などによって花の色や葉の形など少しずつ違ういろいろなタイプが見られますが、葉柄つけ根の托葉が櫛の歯状に深く切れこむことで、他のスミレと区別できます。



に生育できるよう。環境などによって花の色や葉の形など少しずつ違ういろいろなタイプが見られますが、葉柄つけ根の托葉が櫛の歯状に深く切れこむことで、他のスミレと区別できます。

(2) ニョイスミレ（ツボスミレ：スミレ科，スミレ属）



サクラと同様、スミレの仲間にも夏期の早いものと遅いものがありますが、このニョイスミレは遅い方で、ほ



ぼ全国に分布しています。特に田んぼの畦や沢沿いの林内など、湿り気のあるところでよく見られます。白い小さな花で、距が短いのが特徴ですね。

(3) アカネスミレ（スミレ科，スミレ属）



比較的乾燥した、日当たりのよい林の縁や土手などによく見られます。花は紅紫色のものが多いですが、薄紫のものや青みがかかったものなど、いろいろなタイプがあるようです。体全体に毛が多いのが特徴で、葉だけでなく、距や子房、果実にも毛があ



ります。距が細長いのも特徴の一つで、上のニョイスミレと対照的です。

スミレの仲間は花期がずれるだけでなく、日当たりや湿り気などによっても生育する種類が違っているため、環境条件と生育するスミレの種類を関連付けて考察してみるのも面白いでしょう。

(『日本のスミレ』 いがりまさし(山と溪谷社)を参考にしました。)

【理科支援員 宮内】